

令和2年度学校評価 自己評価実施報告

栃木県立小山高等学校

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的かつ根気強く学習に取り組み、希望する進路の実現に向けて努力できる生徒を育成する学校 ○ 学習や部活動等に意欲的に取り組み、文武両道の実践をとおして自己の能力を最大限発揮できる生徒を育成する学校 ○ 学校生活全体をとおして、新しい時代を切り拓き、社会のリーダーとして活躍できる生徒を育成する学校
--------	---

本年度努力点	<ol style="list-style-type: none"> 1 【進路実現に向けた連携強化】 生徒のよりよい進路実現に向けた進路指導部・学習指導部・各学年の密接な連携 2 【生徒指導・生徒支援体制づくり】 多様化する生徒に対し、早期に、きめ細かく、組織的に指導・支援できる体制づくり 3 【文武両道の推進】 学習と特別活動（部活動・生徒会活動・ボランティア活動等）が互いに相乗効果をもたらす計画の策定と実践 4 【新たな100年への基盤づくり】 新教育課程の実施、学校課題の解決に向けた各施策等の見直し
--------	--

今年度の重点目標と努力点		今年度の取り組み	自己評価	今後の改善方策等
目 標 ①	安心・安全な学校環境のもと、学力の向上と進路実現を可能とする組織力の強化 1. 「小山高校探究プログラム」の実施による探究力と進路意識の向上（学習指導部） 2. コロナ禍という逆境における充実した進路指導の計画・実践（進路指導部） 3. 課題研究の充実（理数教育推進部）	1. 昨年度計画した「小山高校探究プログラム」を、コロナウイルス感染症流行の中で実現できる形で企画・実施した。 2. 【オンラインの活用】保護者説明会に参加できない保護者も視聴することができた。 【アクティブ・ラーニング型キャリア教育】対象クラスを2分割して、対面とオンラインのハイブリッド形式で実施したため、スタッフの参加数が増加し、質的により充実した内容で実施できた。 3. 大学との連携により課題研究を実施した。	A	1. 「小山高校探究プログラム」の運営法・指導法を改善していくとともに新教育課程全体の運営や評価について調査・研究を進める。 2. オンライン等を活用した進路行事の質を向上させる。また、学習指導部と連携して、2年生の総合進路探究プログラムの成果を、3年次での学びの計画書等に生かしていく。 3. 課題研究の指導法を改善し、理数教育の充実を図る。
目 標 ②	「知・徳・体」のバランスのとれた生徒の育成 1. 特別活動（学校行事や部活動など）の内容の見直し及び限られた中での効率的な活動の推進（特活指導部） 2. 高校生マナーアップ運動の推進（生徒指導部） 3. 心身の健康の保持増進と感染症予防対策の徹底（健康指導部）	1. コロナ禍で可能な限り行事を精選して実施した。 2. コロナ禍での公共の施設等での主体的なモラル・マナーの定着を図る呼びかけを通して、意識向上を推進した。 3. 感染症に対する意識を高め、日々の学校生活に於いて注意喚起をした。	B	1. 学校行事の開催時期や内容等の見直しを図る。 2. 生徒一人ひとりの規範意識の一層の向上を図り、保護者・地域との連携を進める。 3. 感染症に対する危機意識が低下しないよう呼びかけるとともに、感染症予防対策を継続する。
目 標 ③	保護者や地域に信頼される選ばれる小山高校の構築 1. 小山高の現状と将来を見据えた新教育課程の編成（教務部） 2. 保護者から支持されるPTA活動の在り方（生涯学習部）	1. 目指す学校像や現状を踏まえた教育課程編成方針を策定し、それをもとにした教育課程案を作成した。 2. さまざまな行事が中止になったが、HPを活用して情報発信を行った。	B	1. 国の方針や受験科目に合わせて改善していく。 2. PTA支部会の実施方法や内容等を検討する。

自己評価基準 A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力が必要

